



第一海堡の過去と現在

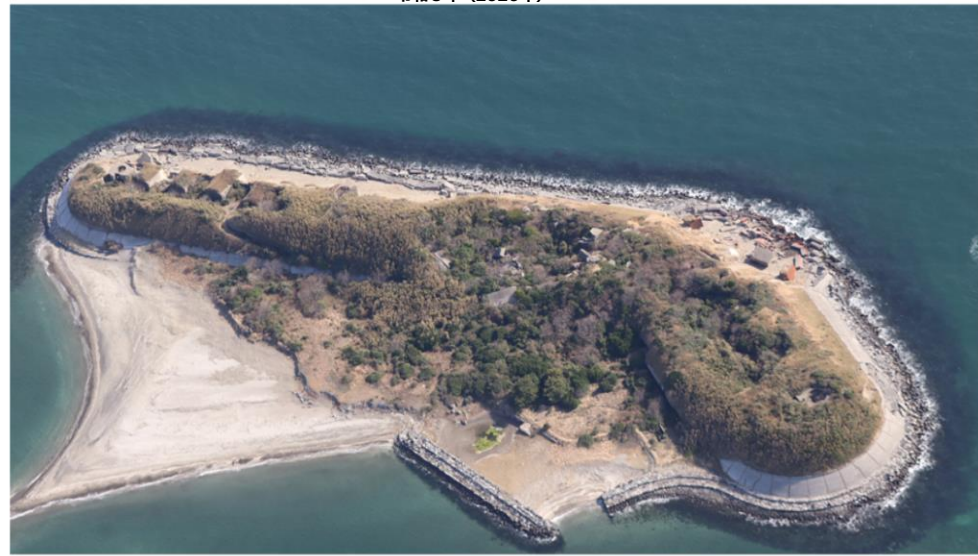
昭和33年（1958年）



【資料】昭和33年(1958)3月、米軍撮影

【出典】東京湾口航路事務所HPより

令和8年（2026年）



第一海堡とは？

・第一海堡は明治時代、富津岬の沖に築かれた人工島です。

現在は千葉財務事務所が管理しています。

築造時期 明治23年（1890年）竣工

築造場所 富津岬の先端から1.2km
水深5mほどの海上

築造費用 総額154万円（現在の価格で**約130億円**）

築造方法 70,000m³の石材、130,000m³の砂を使用し、
32万人の人夫が使役されました。



出典：国土地理院「地理院地図（白地図）」

築かれた経緯

・東京湾の入口は、富津岬（千葉）と観音崎（神奈川）の間がギョッと狭くなっています。東京に海上から外敵が侵入するのを防ぐために第一海堡が築かれました。

・当時としては、とても挑戦的で先進的な工事でした。その技術は今の海洋工事にもつながっていて、第一海堡は**“海洋工事の基礎をつくった存在”**と言われることもあるほどです。



出典：国土地理院「地理院地図（白地図）」

進行する崩落

明治時代に築かれ、現在も当時の面影をとどめる第一海堡。
しかし、その役目を終えてから相当年数が経過し、風雪や海水の
影響を受け続けた結果、構造物の浸食や崩落が進み、当時の姿が
失われつつあります。以下は、崩落が進行している第一海堡の現
状です。

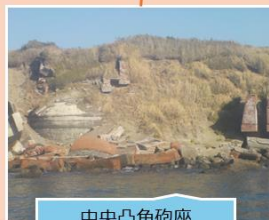
令和8年（2026年）



遠景



西端防波壁



中央凸角砲座



第三砲台（南）

R6.12.3撮影

近景



波浪に曝されやすい箇所の被覆コンクリートが崩壊。



波浪に曝され、煉瓦積みの砲座は崩壊し、散乱している。



基礎部分の砂が流出し構造物が崩落。崩落の衝撃で亀裂が生じている。

R7.9.11撮影

第一海堡と周辺施設



▲富津公園、第一海堡、第二海堡、第三海堡の位置図



▲第一海堡（左）と県立富津公園先端（右）



▲県立富津公園先端（上）と第一海堡（下）

第一海堡と富津公園

・第一海堡の東方にある富津岬は「県立富津公園」として整備されており、公園の一部は国有地です。かつては、干潮時に岬から砂州が伸びて第一海堡と陸続きになり、歩いて渡ることが出来たため、**<関東の天橋立>**とも呼ばれていました。現在は危険物の残存や構造物の劣化等安全上の問題から**立入は原則禁止**としています。

第二海堡の現状

・第一海堡から西方へ約2.1km先には第一海堡の竣工から24年後の大正3年（1914年）に築かれた第二海堡があります。現在は、国土交通省が管理する施設となっており、ツアーガイドとともに島内を歩き、遺構を直接見る貴重な体験ができます。

第三海堡の現状

・第二海堡から南方へ2.5km先には大正10年（1921年）に築かれた第三海堡「跡」があります。本地は関東大震災で大きな被害を受け、運用継続が困難になったと記録されています。しかし、完全に失われたわけではなく、大型兵舎などの構造物は一部横須賀市内へ移設され、保存されています。